

科目名	助産学実習Ⅱ Midwifery Practicum Ⅱ
授業形態	実習
標準履修年次	1, 2年次
実施学期・曜時限等	通年
実施場所	4B棟206
単位数	3単位
担当教員名	川野 亜津子 Atsuko Kawano 岡山 久代 Hisayo Okayama 金澤 悠喜 Yuki Kanazawa
ティーチングフェロー(TF)・ ティーチングアシスタント(TA)	なし
オフィスアワー等	オフィスアワーは特に定めませんが、事前連絡をしてから訪問すること 川野亜津子 AKAWANO@md.tsukuba.ac.jp 岡山久代 okayama@md.tsukuba.ac.jp 金澤悠喜 ykanazawa@md.tsukuba.ac.jp
授業の到達目標 (学習成果)	(1)ハイリスク状態にある母子と家族の様々な問題をとらえ、母児の健康生活を促進するために、個別性を重視した包括的なアセスメントと実践について理解できる (2)ハイリスク状態にある母子とその家族に生じている問題について、助産師がどのような役割を果たすのかを理解できる (3)ハイリスク状態にある母児を受け持ち、理論と科学的根拠に基づいてアセスメント、計画立案、実施および評価ができる (4)ハイリスク状態にある母児とその家族に対するケアの質の評価と、ケアの質の向上のための政策を検討できる (5)ハイリスク状態にある母児とその家族をケアする看護職に対する教育と助産師基礎教育について、考察できる (6)周産期のハイリスク状態にある母子や家族の様々な問題をとらえ、母子の健康生活を促進するための研究課題について近年の動向と問題を踏まえて検討できる
他の授業科目との関連	助産師教育課程履修者は必修
履修条件	受講は、助産師国家試験の受験資格を得ようとする学生に限る
授業概要	ハイリスク事例とその家族を対象に、高度な助産 実践者として科学的根拠をもって個別対応の助産 過程を展開し、可能な範囲でケアの実際に関与する。また、受け持ったケースをレポートにまとめることでケアの質の改善に向けた研究課題や助産 基礎教育の在り方、政策的課題を検討する
キーワード	助産学実習 Midwifery Practicum 周産期ケア Perinatal Care 周産期医学 Perinatal Medicine

授業計画	<p>1 妊娠期ハイリスク実習:MFICUに産科合併症で長期安静入院・薬物治療を要する妊婦を受け持ち、助産ケアを展開するとともに、ケアの質の改善に向けた課題を探索する</p> <p>2 分娩・産褥期ハイリスク実習:帝王切開分娩の母児を受け持ち、助産ケアを展開するとともに、ケアの質の改善に向けた課題を探索する</p> <p>3 NICU・GCU実習:入院児を受け持ち、看護ケアを展開するとともに、母児へのケアの質の改善に向けた課題を探索する</p> <p>4 ハイリスク状態にある母児とその家族へのアセスメントおよびケアの質の向上のための政策的課題について検討する</p> <p>5 必要なケア計画・実践について、判断した内容を実習指導者からスーパーバイズを受ける。実習記録、およびケースレポートを教員に提出し、指導を受ける</p>
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	助産学および関連領域の文献を雑誌など定期的に読み、最新の助産ケアに関する理解を深める。
成績評価方法	<p>4/5以上の出席を以て評価を受けることができる</p> <p>授業の到達目標の達成状況60%, 記録物, レポート・カンファレンス40%</p> <p><評価基準></p> <p>評価の視点は以下のとおりである</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 適切な問題を設定できる 2 設定した問題の背景を説明できる 3 設定した問題に対してどのような課題があるのかを指摘できる 4 その解決策について、先行研究がどのように述べているかを挙げることができる 5 既存の意見をふまえて、自らの考えを述べるることができる <p>上記に対応した評価基準は以下のとおりである</p> <p>A+ 上記1～7を自身で達成できる</p> <p>A 上記1～7をほぼ自身で達成できる</p> <p>B 上記1～7を教員の指導を受けながら達成できる</p> <p>C 上記1～7を教員の指導を受けながら概ね達成できる</p> <p>D 上記1～7について教員の指導のもとでも達成できない</p>
教材・参考文献・配布資料等	助産師基礎教育テスト 日本看護協会出版社
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	